

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100343		
法人名	医療法人 寿仁会		
事業所名	グループホーム ファミーユ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮2-1-18 ユートピア沖縄4階		
自己評価作成日	平成25年 1月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=4790100343-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年 2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームファミーユは、同じ建物内に法人のクリニックがあり、入居者の定期受診や病状の変化など、医師・看護師に報告し協力体制にあります。又、近くに法人の病院もあり、緊急時は連携し対応しています。デイサービスも併設しており、夏祭り・敬老会・クリスマス会等の行事や勉強会を合同で行っています。天気の良い日は近くの公園や図書館に入居者と一緒に出かけています。家族の面会も多く、家庭的な雰囲気の中で入居者が生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近隣に公園、図書館、病院、市民会館、郵便局、保健所、警察署、大学等があり、交通アクセスも便利な所に位置している。建物内はクリニック、デイサービス、高齢者住宅、保育園等が併設され、利用者の殆どが階下のクリニックをかかりつけ医として受診している。法人の病院も近く、緊急時は医療連携がされている。入居者は近隣の図書館や公園へ散歩に出かけたり、保育園児との月1回の交流会や法人合同の敬老会、クリスマス会等に参加している。また、ミニバザーを企画し、入居者の手工芸品やちんぴん作り、販売等個性を生かした取り組みをしている。管理者は毎週、自治会の集まりに参加し情報交換し地域との交流に努めている。職員は全員有資格者で理念に掲げた「入居者が笑顔で暮らせるように柔軟な対応」で支援していることがうかがえる。防災訓練や研修会は法人と合同で行われている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な生活環境のもと、穏やかに自分らしく、仲良く朗らかに、笑顔で暮らせるお手伝いをします。職員は常に心を柔軟に気軽に相談できるよう努めています。地域で安心して生活できる住みよい環境作りに取り組んでいきます。	前年度の外部評価の結果をうけ、全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた話し合いを行い「事業所は互いに支えあう地域家族」という思いを理念に組み入れた。職員は理念を唱和することで共有し、利用者がその人らしく穏やかに暮らせるよう柔軟に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の集まりの日に、行事案内の説明をし、パンフレットをお渡しして、参加依頼をお願いしている。法人全体の祭りやクリスマス会の余興に、地域住民の方々にも参加頂きました。	管理者は自治会の集会に毎週参加し、法人主催の研修会や行事への参加を呼び掛けている。事業所ではミニバザーを企画して地域の方に参加してもらったり、地域の祭りに出かけたりと地域の一員として取り組んでいる。法人でも校区のまちづくり推進会議に参加し地域との連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用して、ご家族や運営推進委員の方々や情報交換し、認知症の理解を得られるよう努めている。今年度はまだ、認知症の勉強会を開催できていないので、地域住民の方も参加できるよう取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、行政、家族参加のもと、ホームの利用状況、活動報告、事故報告を行い、助言・要望を頂き、サービス向上に繋げている。利用者も参加され、ホームでの生活ぶりを聞きとり、委員の方との交流を図っている。	運営推進会議を2カ月に1回定期的に開催し、利用者、利用者家族、自治会長、民生委員、行政が毎回参加している。会議では事業所の取り組みや活動報告、参加者の意見や質問、行政からのアドバイス、地域の情報など多岐にわたる。運営推進会議の記録は後日家族へも配布される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、家族からの要望等について、意見交換やアドバイスを頂き、サービスに繋がっている。サービス導入で不明な点は、後日回答を頂いています。	行政の担当者は運営推進会議に毎回参加し、事業所の取り組みや相談、法制度の解釈や運用等のアドバイス、外部評価開示について等、サービスの向上にむけた協力関係にある。3月には那覇市グループホーム連絡設立会が予定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員が理解し、緊急時やむを得ない身体拘束を行う場合は、家族に説明し承諾を得てから行い、又経過については、細かく記録を残すようにする。	「身体拘束をしない」方針があり、利用契約時に家族へ説明している。職員には法人主催の研修会への参加や資料配布をしている。帰宅願望の利用者には玄関先に椅子に腰かけてもらい職員が対応したり散歩に出かけたりもする。精神的拘束にならないように言葉かけや対応に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面だけではなく、毎日の利用者との関わりの中で、言葉遣いやケアの対応について注意している。		

沖縄県(グループホーム ファミージュ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は法人主催で、司法書士をお呼びし、成年後見制度について、ご家族や地域住民も参加されて勉強会を行なった。その時の参考資料をもとに、職員は自己勉強を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にわかりやすく説明している。説明に対し質問がないか確認した上で、同意を得て契約している。今年度は介護報酬改定があり、重要事項説明書を改に作成し、説明をし同意書を交わしました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を設置し、家族や面会者からの意見や要望等を聞けるように努めている。又、利用者や面会時に家族に話しかけ、なんでも相談しやすい雰囲気作りをしている。出てきた意見、要望は直ぐに職員間で話し合い解決している。連絡ノートを活用し情報共有している。	意見箱は設置しているが利用者家族からの活用はなく、面会時や運営推進会議等で直に意見や相談がある。「カラオケが大好きなので家のカラオケセットを使ってほしい」「歩行訓練を家族で対応したい」「役割を与えて欲しい」「マッサージを利用させたい」等の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に業務日誌で1日の活動内容を報告し、その都度課題に対してのアドバイスを頂き、検討するように努めている。	管理者は、職員からの提案や意見を申し送りノートで確認している。毎月の壁画作りやファミージュ便り、誕生日会の担当を決め、企画等職員の自主性に任せ、力が発揮できるようにしている。職員の提案からミニバザーの収益金でたこ焼き器や炊飯器、キッチングッズ等を購入した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断やインフルエンザの予防接種の実施、ホーム内環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部研修では認知症の勉強会への参加の機会を設けてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や施設見学へ参加することで事業所以外の人と情報交換している。グループホーム連絡会に加入して、他事業所と情報交換してサービスの質の向上に取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を行なった上で、本人や家族より要望や困っていること、不安なことを聞き取り、安心して生活できるようにサービス導入前に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より要望や困っていること、不安なことを聞き取り、職員間で取り組めることを話し合いながら、家族との信頼関係作りに取り込んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の利用者・家族がホーム見学の際に面談を行い、本人のニーズに合ったサービスが受けられるように他の施設の紹介も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした時間の中で、入居者によりそい、さりげない声かけをしながら、心理的な負担がかからない日常生活が過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日々の生活で、喜んだ出来事、不安に思っている状況等も伝えるようにしている。時には電話で日々の様子を伝えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活してきた自宅周辺へ出かけたり、知人・友人などの訪問があるときは、気兼ねなく会話ができるように対応している。なるべく家族に多く面会に来てもらえるように努めている。	地域の方が2週間に1回、数人で事業所を訪問されたり、友人・知人等の訪問も多い。事業所利用前に通っていた「おはよう会」への参加や、地域の餅つき会への参加、馴染みの地域へドライブ、近隣の公園への散歩、県立美術館博物見学、保育園との月一回の交流会等、地域社会との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、お互いに気遣い支え合う良い環境ができています。状況により職員が間にはいり、穏やかに過ごせる環境作りをしている。		

沖縄県(グループホーム ファミージュ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、本人・家族との関係を継続しながら他事業所や専門職と連携をとりながら支援できるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話から本人の生活歴や本人のやりたいことなどを聞き出し、家族の面会時に情報をとり、申し送り時に話し合い、支援に繋げている。	利用者の日常生活・活動・ゆんたく会の中から思いや意向を把握している。意思確認ができない利用者は表情や発語等、アセスメントや家族から聞いて検討している。利用者が不穏な状況に陥る要因については職員間で共有し対応を統一している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に家族に情報を得ながら、又本人との会話の中から、生活歴や生活習慣等を把握し、サービス利用に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活のリズムを把握し、心身の状態に気を付けながら、日々の申し送りや個別記録で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望や困っていることを聞き、居室担当者を主に職員間で話し合い、介護計画に反映している。	モニタリングは3カ月毎に行われている。見直しは、状態変化が合った時や更新時に行っている。サービス担当者会議には居室担当職員と家族が参加し、意見や要望、意向等話し合い介護計画を作成しているが、利用者の参加は見られない。	その人らしく暮らし続けるための個別計画に利用者が主体的に関わり、介護計画が作成されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録のあり方や、職員間のケアの情報を共有しながら、介護計画の見直しが円滑に行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや家族の要望に応じて、他のサービスも受けられるように取り組んでいる。基本的には受診は家族が同行するが、状況に応じて家族と相談し、職員で柔軟に対応している。		

沖縄県(グループホーム ファミージュ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所の保育園児との交流や、近くの図書館利用や公園散歩、、スーパーの地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は希望するかかりつけ医を受診している。家族が対応するときは、日々の健康チェックの内容と病状を報告し、受診できるようにしている。必要ときは管理者が付き添い、主治医に報告している。	利用者や家族の意向で協力医をかかりつけ医とした方もいる。受診は原則家族対応としているが、1階のクリニックまでの誘導は職員が行い、家族と一緒に立ち会い情報を共有している。立ち会えない場合は、電話や面会時にて報告している。家族対応の際は健康チェック表を持たせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時、併設事業所の看護師に報告・相談し、受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が医療機関と連携し、日々の状態については、見舞いに行き、家族との連絡を常時取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、入居者や家族へ「医療行為を要する場合は対応できない」ことを説明している。これから終末期のあり方について、代表者、他職種と検討しながら支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の看取りについて、看護師が常駐していない為、利用者が医療行為を要する状態になった場合は、本人に合った施設へ移ってもらう方針である。現在、状態変化が見られる利用者の家族には、事前に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しスタッフルームに張り出し周知徹底を図っています。緊急時には併設事業所の看護師に連絡し、応援体制にあります。応急手当や初期対応の勉強会を行い、実践できるよう訓練していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	8月に消防署職員参加のもと、併設事業所と合同で消防訓練を行いました。今年2月に2回目の合同訓練実施予定している。	消防署協力の下、8月と2月に夜間を想定した避難訓練、消火活動の訓練を併設事業所合同で実施し、民生委員2名の参加があった。消防訓練チェックリストを作成し自己評価している。1階の事務所に通報システムが設置されている。事業所内には避難経路図の掲示はされていない。	事業所は、高齢者複合介護施設の4階にある為、施設全体の合同訓練のみではなく、事業所内の避難経路図の掲示や事業所独自の訓練を計画し実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシー確保を常に基本とし、寄り添うケアを目指している。適さない対応があった際は職員間で話し合い、改善するように心がけている。	入居者一人ひとりの出来る事、得意な事を把握し、事業所主催のミニバザーでは、昔市場で働いていた方にレジを担当や料理が好きな方にはちんぴん作りを担当してもらう等活躍できる場面を作る取り組みを行っている。プライバシーを損ねるような言葉かけがないか申し送りの際に職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の衣類を本人と一緒に選んだり、本人の好む趣味や特技が行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を確認しながら、本人と相談しながら、寄り添うケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・入浴後、日頃よりお化粧を楽しんでいます。着替えは本人の希望する衣類を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	建物内の委託業者に食事は3食準備して頂き、下膳片づけは、入居者の力量に合わせて行なっている。1ヶ月に1回昼食作りと数回おやつ作りを利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。食後のコップ洗い等は利用者が交代できるようにその都度声かけをしている。	食事は3食とも高齢者複合施設内の委託事業者による配食サービスを利用している。月に1回クッキングの日として昼食を利用者と一緒にごしらえや調理、片づけ等を行っている。又、月に1回～2回おやつ作りも利用者と一緒に行っている。職員は検食を入居者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、チェック表に記録し、水分補給は、朝の体操後、おやつ時にお茶の時間を設けて飲水を促している。食事量の少ない方は、家族と相談し食事形態を変更したり、補助食品を提供して栄養が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の習慣として利用者全員が行なっている。毎食後に自室の洗面台にて声かけや見守りを行い、できない方は介助にて磨き残しがないように気をつけている。口腔内や入れ歯の状態を把握し、歯科受診が必要な時は家族に報告し受診できるように支援している。		

沖縄県(グループホーム ファミージュ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように、適宜トイレ誘導を行い、排泄チェック表に記録している。排泄の失敗時は自尊心を傷つけないように対応している。	各居室にトイレが設置され、フロアに1カ所ある。排泄チェック表を活用し、入居者の排泄状況を把握しトイレ誘導を行っている。殆ど自室のトイレを使用している。失敗時はさりげなく声かけ、誘導して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、下剤の調整服用にて排便対応している。毎朝のラジオ体操、リハビリ体操や散歩を行い、便秘予防に努めている。必要に応じて、腹部マッサージを行なっている。改善しない場合は主治医に報告し、下剤の調整をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者や家族の希望に応じて入浴の回数を決め、入浴を行なっている。その都度調整を行っている。入浴拒否の場合は無理強いせずに時間や曜日を替えて柔軟に対応している。異性入浴の入浴介助は本人、家族の同意を得て支援している。	入浴は週に2~3回と決まってはいるが、希望があれば、変更可能である。基本的には個浴であるが、仲の良い入居者同士2名で入る方やお気に入りのシャンプーやリンスを持ち込まれる方もいる。拒否される方は、無理強いせず時間をおいたり、職員を替え対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調確認を行い、状況や希望により休んで頂き、午睡の時間も設けている。夜間帯寝付けない利用者には、会話をし不安を取り除けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に薬の説明書を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があった時は、申し送りノートに記録し、症状の変化等は生活記録に記録し、家族や主治医に情報を提供できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの1日の生活のリズムを把握し、心身の状態に気を付けながら、食事の片づけ、居室掃除等出来る事を支援している。おしぼりたみや新聞折りは利用者の方が協力して行っている。趣味やレクリエーションで気分転換になるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	建物周辺や天気の良い日は近くの公園に散歩に出かけている。利用者に出かけたい場所や希望を聞き、ドライブや買い物に出かけている。	日常的に、近くの公園に散歩に出かけたり、利用者のコーヒーやヘアクリーム、クッキングやおやつなどの材料の購入にスーパーへ出かけている。ドライブはミニミニ動物園やモノレールに乗車等、なかなか行けない場所へ外出している。	

沖縄県(グループホーム ファミージュ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にお財布とノートを用意して頂き、外出先での買い物のお金を事前にお預かりし、管理している。外出時にお財布の中から買い物ができるように支援しています。家族面会時に収支確認後サインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族に電話をかけて、会話を安心して頂いている。暑中見舞いや年賀状を家族に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはソファを置き、テレビを観ながら、ゆったり寛げる空間である。食事の時間は音楽を流し、本人のペースで召し上がれるようにしている。食堂にある壁面には毎月1回その月の季節感を出せる飾りつけを利用者と一緒に作成している。	共有空間は、カレンダーが見やすい大きさと作成されている。ソファやテレビが設置され入居者同士会話やレクリエーションを楽しんでいる。食堂には、水槽を設置し魚の餌やりは入居者が担当している。毎月職員と入居者で季節の壁画を作成し飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーには家族が面会に来たときに、ゆっくり寛げ、本人とおしゃべりできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使っていた家具や家族と一緒に写した写真が飾られている。塗り絵や習字などの本人の作品を作品集に綴っている。	各居室には、トイレと手洗いが設備され、テレビ、冷蔵庫、食器棚、ポットなどが持ち込まれ、壁には、家族の写真や作品を飾る等過ごしやすいように工夫されている。毎週シーツ交換と清掃の日を決め、可能な入居者は一緒に行っている。居室の入り口に、好きな造花や孫の写真を掛け自室が分かるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、居室内のトイレや廊下、浴室に手すりが設置されている。転倒防止の為、洗面台の下の水まわりやトイレ内、室内の環境整備を日頃から心がけている。		